

令和4年度業務実績に関する暫定評価（案）の概要

1 業務実績（税込）

（単位：百万円）

区 分	R3 年度（実績） A	R4 年度（見込） B	B - A
経常収益	50,464	52,589	2,125
医業収益	40,746	42,778	2,032
経常費用	49,116	51,766	2,650
医業費用	48,120	50,755	2,635
経常収支	1,348	823	▲525
経常収支比率	102.7%	101.6%	▲1.1
当期純損益	1,174	391	▲783

2 機構の業務実績・自己評価

（1）機構自己評価（機構が行動計画として設定した全119項目に対する評価※R4 上半期時点実績）

区 分	R3 暫定	R3 本	R4 暫定	備 考
S：計画に対し十分に取り組み、 顕著な成果が得られている	8	10	7	【5】チーム医療の推進、【15】感染症医療、 【31】外来化学療法の実施、【34】ロボット支援手術、 【75】勤務環境の向上、【77】研究支援体制の実施、 【104】業務運営の改善及び効率化
A：計画に対し十分に取り組み、 成果が得られている	89	90	97	
B：計画に対し 十分に取り組んでいる	18	17	10	【10・11】紹介率・逆紹介率（心、子） 【17】リハビリテーション（心） 【25・40・50】入院患者数・外来患者数（3病院） 【39・49】病床稼働率（総、心） 【67】ラーニングセンター（子）、【68】海外視察
C：計画に対する取り組みは 十分ではない	0	0	0	
未評価（データ集計中、新型コロナ 影響による開催中止等）	4	0	5	【8】患者満足度調査、【55】メディカルコントロール協議会 （子）、【64】看護師職員確保対策、【97】県民向け イベントの開催、【108】業務改善運動推進制度
評価対象外	—	2	—	
計	119	119	119	

（2）令和4年度数値目標の達成状況（機構が中期計画・令和4年度計画において指標設定）

区 分	R3 暫定	R3 本	R4 暫定	備 考
目標達成見込	13	15	17	
目標未達成見込	11	11	7	【10・11】紹介率・逆紹介率（心、子） 【25・40・50】入院患者数・外来患者数（3病院） 【39・49】病床稼働率（総、心）
未評価（データ集計中）	2	0	2	【8】患者満足度調査、【108】業務改善運動推進制度
計	26	26	26	

3 県評価（全 119 項目のうち、県が数値目標項目など 69 項目を「重点項目」として設定）

区 分	R3 暫定	R3 本	R4 暫定	備 考
☆：良好で特に着目する状況	8	10	7	内訳は「4 項目別業務実績評価抜粋」に記載
○：良好な状況	54	55	55	
△：より一層の取組を期待	5	4	4	内訳は「4 項目別業務実績評価抜粋」に記載
▼：取組改善を強く要望	0	0	0	
未評価	2	0	3	【8】患者満足度調査、【64】看護師職員確保対策 【108】業務改善運動推進制度
計	69	69	69	

4 項目別業務実績評価抜粋（県評価のうち☆及び△の項目を抽出）

No.	内 容	県評価	
		県評価	機構評価
5	チーム医療の推進	☆	・総合病院の院内感染対策チームによる、新型コロナウイルス患者の受入れ対応により県内医療提供体制の確保に貢献
		S	・総合病院への精神身体合併症病棟の設置に向けた体制の整備（県立病院機構精神科あり方検討ワーキンググループの開催、総合病院の精神科リエゾンチームや認知症ケアチームを中心とした取組）
15	感染症医療	☆	【新型コロナウイルス感染症への対策】 ・3病院における病床の確保により、県内医療提供体制確保に貢献 （総合 16 床、こころ 4 床、こども 20 床）※R4.9 月時点
		S	【結核への対策】 ・総合病院においては県内最大規模の結核病床（50 床）を維持し、県全体の結核対策に貢献
31	外来化学療法の充実（総合）	☆	・外来化学療法加算件数の増加 （R3.9 月末 6,416 件→R4.9 月末 6,826 件） ※R3 年間 12,812 件
		S	・抗がん剤治療の副作用である脱毛を抑制する頭部冷却装置（PAXMAN）の導入により、患者の QOL 向上に寄与
34	ロボット支援手術（総合）	☆	・ダ・ヴィンチ使用手術件数の増加 （R3.9 月末 131 件→R4.9 月末 144 件） ※R3 年間 243 件
		S	・外部講師の招聘、ロボット手術運営部会の立ち上げ等により、高度な専門的医療の提供体制を拡充
75	勤務環境の向上	☆	・就学前児童の養育資金貸付制度（R3 創設）の取組を全国の自治体に発信
		S	

No.	内 容	県評価	県評価
		機構評価	
77	研究支援体制の充実	☆	・きこえとことばのセンターにおけるこれまでの継続的な取組や研究成果が、静岡社会健康医学大学院大学における全国初の「聴覚・言語コース」の設置に貢献
		S	
104	業務運営の改善及び効率化	☆	・管理一体型 ESCO 事業の導入により、光熱水費の上昇抑制及び施設管理費用の削減
		S	
17	リハビリテーションの充実（こころ）	△	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション件数は減少傾向 (H30 11,517 件→R 元 8,945 件→R2 8,080 件→R3 5,949 件→R4.9 末 2,801 件) ・新型コロナウイルス感染対策（一回あたりの受入人数を制限、感染リスクの低い野外での活動、リモートによる活動）を行いながら、利用者とのつながりを維持 ・デイケア等の利用者増加に向けた、継続した取組を期待
		B	
39 49	病床稼働率 (総合・こころ)	△	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響により、各病院の上半期時点の病床稼働率は中期目標で示した目標値未達成であるため、今後の取組に期待 <p style="margin-left: 40px;"> 総 合 目標値 90%→実績 82.2% こころ 目標値 85%→実績 78.4% </p>
		B	
67	ラーニングセンターの活用（こども）	△	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟再編の検討等の影響により、使用を一時休止 ・ワーキンググループを開催し、L 棟 3 階大会議室をラーニングセンターとして整備する方針を決定 (令和 5 年度に整備、令和 6 年度からの運用を予定)
		B	